

## 「高野口小学校～今でも現役の木造校舎～」 (橋本市高野口町)



卒業生一番の思い出シーン



中は立派な設備です

高野口町は名前からわかるように、総本山金剛峯寺を擁す高野山の玄関口として栄えた歴史あるまちです。この高野口町に全国的にも珍しい、現役の木造の小学校があります。学校の歴史は古く、130有余年前の明治9(1876)年1月に遡ります。ここから巣立った卒業生は約2万2千人。

高野口町立時代の旧校旗に面白い逸話が残されています。大正9,10年頃、校旗が学校に寄贈される話が持ち上がった際、当時の校長が東京高島屋の知人に相談したところ、実は高島屋では天皇旗の謹製を拝命していたが、用心のため同一の生地を2枚織り上げていた。1枚は宮中に奉納され、そして残りの1枚で出来上がったのが写真にある旧校旗です。

何故、この校舎は今でも現役なのでしょう。本校舎は珍しく平屋造りで柱も太い。それが理由で鉄筋への立替えが後回しになってしまったそうです。その後阪神大地震を経験し、改築(安全)と保存(町おこし)の町を二分する論議の末、耐震補強を含む保存改修の方向で工事が進められています。

外観の古さを保ちつつ、内部は立派な施設整備が進んでいます。失われていく古き良きものが、ここでは立派に次代に引き継がれようとしています。

(取材：萬羽)



## 「布袋湯 ～なにもかもレトロ～」 (湯浅町湯浅)



レトロな世界への入口



湯浅町で唯一の銭湯である布袋湯は、明治初期の建築であり、名称も創業以来そのままのことです。茶色レンガ造りの重厚な入り口は、一見して銭湯とは思えない。最初から銭湯として営業を始めるために建築され、現在までそのままの事。当時としては地元で一、二を争うハイカラな造りであったといえます。

町の人達には、昔から「川原湯」の愛称で親しまれています。

明治初期の創業者から数えて3代目の経営者森岡さんは昭和11年生まれですが、戦時中も父親が経営していた頃のことをよく憶えているといえます。昭和28年7月の大水害時は、布袋湯も脱衣場まで床上浸水し、当時燃料としていたおがくずなどが入手できず、しばらく営業を中止したそうです。その後は、他府県から災害復旧の

応援に来ていた技術者や、もともと花街で賑わっていた湯浅町であったため、芸者さんも毎日100人位は入浴に訪れ、午後2時から夜の11時頃まで営業し、ひっきりなしに訪れるお客様でごった返していたそうです。脱衣箱は壁面に男女各28設置されていますが、扉の名前も、写真のように、「もみじ」、「らん」、「もも」など、当時の芸者さんの源氏名から付けたとか。

最盛期には町内で9軒あった銭湯も、現在は布袋湯1軒になり客足も減少しているとのこと。さらに客層が高齢者中心に変化しているものの、これからも頑張って経営していきたい、とご主人は意気軒昂に語っています。華やかし頃に思いを馳せながら湯に浸るのも一興では？

営業時間 16:00～19:00(定休日：日曜日)

入浴料 大人250円 小人50円

(取材：澤崎)